次に示すポインタ版の「Boyer-Moore 法による文字列探索」プログラムを入力し、自分のパソコンでコンパイル、実行できることを確認してください.なお、プログラムの日本語部分は、英語、ローマ字に変更してかまいません.さらに、以下の問いに答えなさい.

```
#include <stdio.h>
#include <string.h>
#include inits.h>
/*--- Boyer-Moore 法による文字列探索 ---*/
char *bm_match(char *pat , char *txt) {
                           /* txt をなぞるカーソル */
 char
       *pt;
 char
       *pp;
                           /* pat をなぞるカーソル */
 int txt_len = strlen(txt); /* txtの文字数 */
 int pat_len = strlen(pat); /* pat の文字数 */
 int skip[UCHAR_MAX + 1]; /* スキップテーブル */
 int
       i;
 for (i = 0; i <= UCHAR MAX; i++) /* スキップテーブルの作成 */
   skip[i] = pat_len;
 for (pp = pat; *pp != '\for (pp++)
   skip[*pp] = strlen(pp) - 1;
 skip[*(pp - 1)] = pat_len; /* パターンの最後文字の移動距離はパターンの文字数 */
 pt = txt + pat 1en - 1;
                          /* pat の末尾と比較する txt の文字を決定 */
 while (pt < txt + txt_len) { /* txt の比較する文字の位置が txt の末尾を越えるまで */
   pp = pat + pat_len - 1; /* pat の最後の文字に着目 */
   while (*pt == *pp) {
                          if (pp == pat) return (pt); /* 一致した文字がパターンの最初の文字になれば終了 */
    pp--;
    pt--;
   pt += (skip[*pt]> strlen(pp)) ? skip[*pt] : strlen(pp);
 return (NULL);
int main(void) {
 char *s;
 char s1[80]; /* テキスト */
 char s2[80]; /* パターン */
 printf("テキスト:");
 scanf ("%s", s1);
 printf(" \mathcal{N} \beta - \mathcal{V} : ");
 scanf ("%s", s2);
 s = bm_match(s2, s1); /* 文字列 s1 から文字列 s2 を Boyer-Moore 法で探索 */
 if (s == NULL)
   puts("テキスト中にパターンは存在しません。");
   printf("%d 文字目に見つかりました。\n", s - s1 + 1);
 return (0);
```

- 1) キーボードからテキストとして「CAGACAGAGA」を、パターンとして「AGAG」を入力したとき、 次の問に答えなさい。
  - (ア) スキップテーブルを表す配列の skip['G']と skip['A']の値はいくらですか.

## skip['A'] = 1, skip['G'] = 4

(イ)下線②の関数 bm\_match(s2, s1)の戻り値のポインタが指している文字は、テキスト「CAGACAGAGA」のどの文字ですか.

## CAGACAGAGA

2) キーボードからテキストとして「APCPAACBABEAAA」を、パターンとして「AAA」を入力したとき、下線部①の while の条件式(\*pt == \*pp)は何度評価されますか.

			1											
1	Α	Р	С	Р	Α	Α	С	В	Α	В	Е	Α	Α	Α
	Α	Α	Α											
				4	3	2								
2	Α	Р	С	Р	Α	Α	С	В	Α	В	Е	Α	Α	Α
				Α	Α	Α								
							5							
3	Α	Р	С	Р	Α	Α	С	В	Α	В	Е	Α	Α	Α
					Α	Α	Α							
										6				
4	Α	Р	С	Р	Α	Α	С	В	Α	В	Е	Α	Α	Α
								Α	Α	Α				
											9	8	7	
(5)	Α	Р	С	Р	Α	Α	С	В	Α	В	Е	Α	Α	Α
											Α	Α	Α	Α
												12	11	10
6	Α	Р	С	Р	Α	Α	С	В	Α	В	Е	Α	Α	Α
												Α	Α	Α

12 回

3) Boyer-Moore 法のアルゴリズムを変更して、指定したパターンをテキストの末尾から先頭に向かって 探索する関数 char \* bm\_reverse\_text\_match(char \*pat, char \*txt)を作成してください. すなわ ち、bm\_reverse\_text\_match では、txt が指す文字列の末尾から先頭に向かって逆順で並んでいるも のをテキストとして、pat が指す文字列のパターンを探索するものとします. 但し、関数 bm\_reverse\_text\_match の引数も戻り値も、関数 bm\_match と同じとします. 例えば、txt が指す文字 列が"ABCDEF"の場合、pat が指す文字列が"ABC"なら「テキスト中にパターンは存在しません」 となるが、pat が指す文字列が"CBA"なら「4 文字目に見つかりました。」となるようにしてください.

```
/*--- Boyer-Moore 法で,指定したパターンをテキストの末尾から探索する ---*/
char *bm_reverse_text_match(char *pat, char *txt){
 char *pt;
              /* txt をなぞるカーソル */
 char *pp;
              /* pat をなぞるカーソル */
 int txt_len = strlen(txt); /* txt の文字数 */
 int pat_len = strlen(pat); /* pat の文字数 */
 int skip[UCHAR_MAX + 1]; /* スキップテーブル */
 int i;
 for (i = 0; i <= UCHAR_MAX; i++) /* スキップテーブルの作成 */
   skip[i] = pat_len;
 for (pp = pat; *pp != '\neq 0'; pp++)
   skip[*pp] = strlen(pp) - 1;
                       /* パターンの最後文字の移動距離はパターンの文字数 */
 skip[*(pp - 1)] = pat_len;
 pt = txt + txt_len - pat_len; /* pat の末尾と比較する txt の文字を決定 */
 while (pt \geq txt) {
                       /* txt の比較する文字の位置が txt の先頭を越えるまで */
   pp = pat + pat_len - 1; /* pat の最後の文字に着目 */
   while (*pt == *pp) {
     if (pp == pat) return (pt); /* 一致した文字がパターンの最初の文字になれば終了 */
     pp--;
     pt++;
   pt -= (skip[*pt]> strlen(pp) ) ? skip[*pt] : strlen(pp) ;
 return (NULL);
```